



***** センター方式をこれまでに使った人からのメッセージ・体験談 *****

センター方式を利用したのは、利用者さんへの対応に困っていて、どうしたらよいか悩んでいた時に、市主催の無料の研修会があるのを知って参加したのが始まりです。

私が参加した頃は、16枚のシートを全て記入する方法でした。そのために本人と関わる時間が増え、情報が増え、本人を理解しようとする考えに変化していきました。困った場面から、本人はどうしたいんだろう？と考えることができるようになりました。本人の言葉をそのまま書いて、皆で考察することで、チームで統一したケアができるようになりました。今も継続して、道具として利用しながら、本人本位のケア、チームケアの実現に努めています!!

【グループホーム 〔管理者 兼 計画作成担当者〕】

皆が対応に苦慮している利用者の思いを知るために、場面をしぼったり、時間をしぼったりして使用しています。シートを活用する事で「この行動の意味は何？」と疑問を持つ職員が増え、職員の教育ツールとしてとても良いと思います。

【特別養護老人ホーム 〔介護主任〕】

開所当初から、職員が認知症ケアの困難な場面に遭遇し、自分がいないと不穏になってしまう状況がありました。そこで、センター方式を研修へ自ら介護職と研修に参加させていただきました。そこから利用者本位のケアに気付いてもらうために、必要なセンター方式のシート利用し、情報のポケットを多くし、会議で職員間の意志の統一ができることが早道と感じています。

また、今の職につき、職員育成が永遠のテーマと思っていますが、センター方式を伝える事で、機能別の業務と利用者本位の業務の使い分けを行うことができる職員が増えてくることを痛切に感じています。今は、新しい利用者やこまった事例に対して、必要なシートを利用したり、認知症外来の診察、再診の時にD-4シートを4~5日書き、サマリーと一緒に報告などに利用しています。

【住宅型有料老人ホーム、訪問介護、地域密着型通所介護 〔代表取締役、施設長、看護職〕】

利用者に関わることが増え、信頼関係を築きやすく、本人の事を深く知ることができ、本人の好きな事・やりたい事が増え本人が笑顔になった。

また、スタッフと利用者本人の事について話し合う機会が増えた。



【小規模多機能型居宅介護介護の〔管理者〕】

その人の言葉・仕草・表情などをとことん拾っていけば、必ずケアのヒントがあると信じています。言葉の出ない方も、全身で豊かなメッセージを発しておられるのだと言う事がよく分かりました。

【グループホーム 〔介護支援専門員〕】

気付きを発見し共有するくせをつけることができ、気付きから、求められるケアへつなげていくのにとってもよいツールだと思う。事業所では、センター方式シートの記入方法を取り入れたり、カンファレンスや新規利用者、ケアを見直したい方へのアプローチのためのツールとして使っています。

【小規模多機能型居宅介護 〔副主任(介護職)〕】

利用者1人1人の生活リズムであったり、本人の思い等がシートを活用することによって理解できることが多く、本人を知るためには必要なツールだと思う。また、シートを使用することで、ケアをする人の考え方も変わり、利用者を受け入れやすくなります。

個人でできる事ではなく、利用者にかかわる人々で協力しながら作りあげていくものだと思う。達成した後は親密度もかわっていると思う。チームケアの重要性。



【住宅型有料老人ホーム 〔管理者〕】

対象者の表情・態度・言葉(思いもよらない)から理解を深めることができ、全体的に1人の方の思いをつなげていく為に、掘り下げ深めていけるツールとしてよいシートだと思います。

【看護小規模多機能型居宅介護 〔介護支援専門員〕】

最初は、センター方式のシートは多くて使いこなすのが難しいと思っていましたが、何回か他の人のケース等にも関わっていくうちに「あのシートもあった方がより理解が深まるよね」などと同じ事業所内の職員と話すようになりました。事業所内でセンター方式の話題が増え、認知症の方の理解が深まってきているように思います。

【居宅介護支援 〔介護支援専門員〕】

利用者さんだけでなく、「人」を知る上で視点が養われたと思います。

事業所では使用していませんが、私個人で必要なセンター方式シートを使い、家族へ聞き取りを行い、それを家族へ再度伝えることで、家族の「思い」をかえるきっかけ作りなどで活用しています。

【居宅介護支援 〔介護支援専門員〕】

「認知症」というだけで隠れてしまう「その人」がはっきり見えてくる気がします。また、チームでのケアのあり方が明確になります。事業所内では、センター方式シートは、チームでアセスメントをとる時に3つのシートを使用し、日々の記録もシートを使用しています。

【グループホーム 〔管理者〕】

シートを家族にも書いてもらうことで、本人の基本情報が豊かになり、今までの暮らしや、本人・家族の思いを知ることができます。本人をもっと知りたい、継続して観察していきたいという時に有効なシートです。

【小規模多機能型居宅介護 〔管理者 兼 介護支援専門員〕】

「私」＝“本人”とセンター方式では意識しますが、本人はどう思っているか・どうしたいか、をより考えるようになりました。シートを記入することで、本人の感情の変化を知り対応できたり、昔の本人の姿を知ることで家族や職員の対応が変わったことがあります。

【居宅介護支援 〔介護支援専門員〕】

問題行動ではなく何か理由があつての行動、1つでも本人の気がかりを解決することが本人の生活全体の安心につながり、生活スタイルを知ることで、ケアにつながることを学びました。センター方式はケアのポイントを教えてくれる手段として良いものだと思います。

【地域包括支援センター 〔保健師〕】

居宅介護支援事業所のケアマネジメントの後方支援業務において、認知症の人及びその家族のケアマネジメントをどうしたらよいか、という相談案件が増えています。その中の助言のツールや課題の整理などの包括職員としての知識(情報の引き出し)として、「センター方式」というものの理解は、大変重要だと思っています。

【地域包括支援センター 〔保健師〕】

センター方式の考え方は、認知症の方だけではなく、全ての人にとっても(親、子供、友人、地域の方々...)大切な事だと思います。相手の気持ちを考える・気付ける、(自分自身についてもですが)そして行動する、私はこのセンター方式に出会えて良かったと思います。

私は、介護サービス事業所に勤務していませんが、両親と伯父夫婦の4名に自身で書いてもらっています。4名ともまだ要介護状態ではありませんが、生活不活発だった伯父の生活習慣が変わって元気になったり、本人の意識が変わるきっかけになりました。地域包括ケアシステムでも、まずは自助と言われていますが、その自助(セルフケア)を推進できるツールだという気付きを得ました。

